

現状・方向性

◎新たな旅行需要に対応した観光施策のスピーディーかつ柔軟な展開による観光産業の振興

◆新型コロナ感染症拡大の影響により、観光客が大幅に減少し、観光産業は大打撃を受けました。一方で、海外との往来が制限されたことで、日本人の旅行先が国内に限られ、海外から国内へと新たな旅行需要が生じています。こうした需要も取り込み、日々移り変わる社会情勢にスピーディーかつ柔軟に対応し、国の需要喚起策等とも連携し各種施策を展開することで誘客等を図り、裾野の広い産業である「観光産業」の振興を目指します。



R3年度の取組内容

◎安心・安全な観光地の形成

安心で安全な観光地の形成に向け、観光事業者に感染防止策の着実な実施を促すとともに、新型コロナウイルス感染症や各種支援策等の情報提供や相談、業況の把握など、関係事業者と一丸となって取り組むことにより、観光産業の雇用の維持と事業の継続を実現

- ・業種別ガイドラインや新たな旅のエチケットの遵守を徹底するなど宿泊施設・観光施設等のコロナ対策を充実
- ・緊急事態宣言再発令により大打撃を受けた飲食・宿泊・旅行者を給付金により事業の継続を下支え など

◎「新たな旅のスタイル」の普及・促進、デジタル化の推進

コロナ禍での社会変化により、注目度を集めるワーケーションなどを取り入れた「新たな旅のスタイル」の普及・促進や、観光情報検索やコンテンツ予約のオンライン化やキャッシュレスの普及など、デジタルを活用した観光周遊施策を推進

- ・「ワーケーション＝わかやま」のイメージ定着を加速させるため、ワーケーション商品の造成を支援するとともに、ターゲット層を考慮したプロモーションを展開
- ・ワーケーションの利用促進に向け、企業などへの営業を強化
- ・スマートフォン1つで観光周遊できるよう、多言語WEBアプリを構築し、交通パス等のデジタル化を軸に、ワンストップで様々な観光コンテンツを提供する環境を整備
- ・アウトドア志向の高まりを受け、自然に触れ合うサイクリングや体験型観光を活用した誘客を促進 など

<以下、新型コロナウイルス感染症の状況を見極めつつ、各取組を展開>

◎「蘇りの地、わかやま」キャンペーンの展開

本県の豊かな自然で大いにリフレッシュしていただけるよう、和歌山の魅力発信する「蘇りの地、わかやま」キャンペーンを引き続き実施

- ・SNS等を活用した情報発信や京阪神等をターゲットにメディアや旅行会社を対象とした総合プロモーションを実施
- ・メディア系旅行会社とのタイアップによる情報発信及び交通機関等とのタイアップキャンペーンの実施
- ・「わかやま・まるごとスタンプラリー」をはじめとする県内周遊施策の展開
- ・国の施策とも連携し、旅行需要喚起策「わかやまリフレッシュプラン2nd」を実施
- ・新たなプランの提案等による「教育旅行」のさらなる誘致
- ・世界遺産「高野・熊野夢舞台」コンサートや首都圏対策として「和みわかやま東京レセプション2021」の開催 など

◎インバウンドの段階的回復に向けたプロモーション展開

世界に向けた情報発信をより強化するとともに、往来の制限が解除された国・地域から順次、市場ごとの特性とアフターコロナにおける旅行スタイルの変化に応じたプロモーションを展開

- ・公式WEBやSNS、海外メディア、インフルエンサーを活用し、情報発信を強化
- ・訪日旅行実証事業の機会をとらえ、ツアーを催行する旅行会社や関係機関と連携し、本格的なインバウンド回復期に向けた効果的な情報発信を実現
- ・海外メディアを活用した訪日旅行者向けキャンペーン「RECHARGE WAKAYAMA」を展開 など

1 コロナ禍からの観光産業の振興

(1) 安心・安全な観光地の形成 (本冊 3 頁)

- ◆ガイドラインの徹底による宿泊施設や観光施設等のコロナ対策の充実
- ◆コロナに関する情報や国、県の支援情報の提供および相談受付や業況の把握などによる支援
- ◆緊急事態宣言を受け、売り上げが大幅に減少している飲食・宿泊・旅行事業者の事業継続を給付金により下支え =New=

(2) 「新たな旅のスタイル」の普及・促進、デジタル化の推進 (本冊 5 頁)

- ◆「新たな旅のスタイル」の普及・促進のため、ワーケーションを推進 =New=
- ◆観光周遊の円滑化及び消費の拡大のためデジタル化を推進 =New=
- ◆コロナ禍で高まりを見せるアウトドアを切り口とした誘客を促進 =New=

(3) 「蘇りの地、わかやま」キャンペーンの展開 (本冊 6 頁)

- ◆県公式WEBサイト「わかやま観光情報」や県公式SNS、各メディアを活用し効果的な情報発信
- ◆「わかやま・まるごとスタンプラリー」をはじめとする県内周遊施策の展開により消費を喚起 =New=
- ◆新たなプランの提案等による「教育旅行」のさらなる誘致
- ◆「蘇りの地、わかやま」宿泊得々キャンペーンによる誘客促進
- ◆JR西日本や阪急・阪神ホールディングス等交通機関とのタイアップキャンペーンの展開
- ◆世界遺産「高野・熊野」夢舞台コンサートなど世界遺産を核とした誘客を促進
- ◆「わかやまリフレッシュプラン2nd」による県民による県内消費の喚起策を実施

(4) インバウンドの段階的回復に向けたプロモーション展開 (本冊 16 頁)

- ◆公式WEBやSNS、メディアなどの媒体や訪日旅行実証事業を通じ、効果的な情報発信
- ◆新型コロナウイルス感染症の収束期をとらえた「RECHARGE WAKAYAMA」キャンペーンの展開 =New=

2 和歌山を売り出す

(1) 「水の国、わかやま。」で和歌山を売り出す (本冊 18 頁)

- ◆旅行商品造成等を促進するため、引き続き、具体的な周遊モデルコースの設定や周遊案内看板の整備を行うとともに、水にまつわる体験型観光事業者を支援
- ◆「水の国、わかやま。」のスポットを周遊するモバイルスタンプラリーの充実 =New=
- ◆「水」を切り口に本県の自然の素晴らしさを伝えるため、メディア展開するとともに、PR動画やパンフレット、WEB、SNSにより情報発信

(2) 「サイクリング王国わかやま」で和歌山を売り出す (本冊 23 頁)

- ◆サイクリスト向けのモバイルスタンプラリーを太平洋岸自転車道と連携し拡充 =New=
- ◆有名アニメとのタイアップによる特別企画の実施やインフルエンサーによる効果的な情報発信
- ◆自転車の屋内管理や修理道具の貸し出し等、サイクリストに優しい宿泊施設の拡大を推進

(3) 「わかやま歴史物語」(歴史・浪漫)で和歌山を売り出す (本冊 31 頁)

I 「わかやま歴史物語」

- ◆「わかやま歴史物語」講座(仮称)を東京、大阪で開催
- ◆「わかやま歴史物語」人物編スタンプラリーとして、新たに神代～安土桃山編を展開 =New=

II 周年事業

① 紀州東照宮創建400年 =New=

関西の日光と呼ばれる紀州東照宮、創建400年記念事業の効果的な情報発信による誘客促進

② 逸見万壽丸(へんみまんじゅまる)生誕700年 =New=

道成寺の本堂を再建した逸見万壽丸の生誕700年を記念し実施される、秘仏千手観音像の中開帳などの情報発信により誘客を促進

(4) 「世界遺産」で和歌山を売り出す (本冊 41 頁)

I 新たな魅力情報発信と周遊拡大

- ◆世界遺産公式 Facebook により、『高野山・熊野』の旬の情報を発信
- ◆今年開催される紀の国わかやま文化祭 2021 の一環として、世界遺産の地を舞台にしたコンサート、世界遺産「高野・熊野夢舞台」を開催し、各種メディアを介して全国的に情報発信 =New=
- ◆「高野山・熊野を愛する 100 人の会」メンバーによるイベントの開催や各種活動による情報発信

II 保全と活用

- ◆参詣道の「保全と活用」を図るため、ワーケーションや企業CSRを通じた企業誘致や環境保全トレッキング等により、「道普請」の実施を推進

(5) 「日本遺産」で和歌山を売り出す (本冊 54 頁)

I 「鯨とともに生きる」

- ◆SNSを活用した情報発信により誘客を促進
- ◆県外を対象とした修学旅行誘致の実施 =New=

II 「絶景の宝庫 和歌の浦」

- ◆ガイドブックや特設WEBサイトを活用し、和歌の浦の魅力を総合的に情報発信
- ◆前年度実施のフォトコンテスト写真を活用した T シャツアート展巡りを実施し、エリア内の周遊を促進 =New=

III 『葛城修験』一里人とともに守り伝える修験道のはじまりの地」 =New=

- ◆日本遺産ガイドの養成、小学生向けプログラムの開発など人材育成・普及啓発を実施 =New=
- ◆構成文化財等の解説板や誘導板の作成、ホームページやガイドブック、映像コンテンツの制作により、観光客受入体制を強化 =New=

3 和歌山へ招く

(1) 「メディアを活用」して和歌山へ招く (本冊 85 頁)

- ◆テレビ、雑誌、WEB、SNSなどありとあらゆる媒体を活用し、単体もしくはそれらを複合的に組み合わせ、「世界遺産」のブランド力やマーケットの注目度の高いテーマや「まだまだ知られていない和歌山の魅力」に関する情報を効果的に発信するとともに提案活動を実施
 - ① 企画提案活動・・・ターゲット層にマッチした観光素材を活用した企画提案活動の実施
 - ② 観光情報誌「紀州浪漫」・・・全国の主要書店160店舗等で展開(年間26万部)
 - ③ フィルムコミッション・・・業界関係者に強く働きかけ、ロケ誘致により、映像を通じた和歌山の魅力発信と認知度向上を促進

(2) 「ターゲットごとのプロモーション」で和歌山へ招く (本冊 96 頁)

- ◆若い女性層(情報発信力と旅の決定権)をターゲットの中心とした誘客戦略(情報発信)
- ◆ワーケーションの推進を通じた誘客(旅行商品の造成支援により「ワーケーション=わかやま」の定着を加速)
- ◆CSRによる世界遺産保全活動の推進(誘致活動、保全活動体験ツアー等)
- ◆信用金庫等の年金旅行誘致(営業・誘致活動、地域と一体となったおもてなしの充実等)
- ◆コンベンション誘致推進(開催支援、誘致活動)
- ◆修学・教育旅行の誘致(国内回帰・県内志向の進展など傾向の変化を踏まえ、効果的な誘致活動を展開)
- ◆南紀白浜空港を利用した誘客(エージェンツ等訪問による旅行商品造成働きかけ等を実施)
- ◆和みわかやまキャンペーン(県内周遊を促進するための食のモバイルスタンプラリー等を実施) =New=
- ◆「宇宙」を切り口とした新たな層の開拓(ロケット打ち上げ応援イベントや宇宙シンポジウム等を実施) =New=

(3) 「近畿、東海、西日本等」から和歌山へ招く (本冊 113 頁)

I 阪急阪神グループとのタイアップキャンペーン

- ◆大手私鉄グループの豊富なメディア媒体を活用し、京阪神での効果的な情報発信により誘客を促進
- ◆交通媒体の活用、沿線フリーペーパー等への情報掲載、WEB・SNS等での展開

II JRとのタイアッププロモーション

- ◆「WEST EXPRESS 銀河」の運行に合わせた観光関連事業者等と連携したおもてなしを実施 =New=

(4) 「首都圏」から和歌山へ招く (本冊 124 頁)

- ◆国内最大のマーケットで国内外の情報受発信の拠点である首都圏で、プロモーションを展開し、本県の認知度向上と誘客を促進
 - “和みわかやま”東京レセプション2021
 - 【時期等】10月13日(予定) ホテルニューオータニ東京
 - 【内容】観光PRレセプション、メディアに対する観光素材説明会等

4 和歌山でもてなす

(1) 夜の楽しみ方の提案 (本冊 131 頁)

- ◆「Nightlife in WAKAYAMA ～和歌山の夜の楽しみ方～」の拡充

(2) 快適観光空間の創造 (本冊 132 頁)

- ◆観光地内公衆トイレ整備補助
 - 公衆トイレの快適性向上や美化促進を図るため、市町村が行うトイレ整備(大便器の洋式化、温水洗浄便座の設置、小便器の自動洗浄化等)を支援
- ◆宿泊施設等のバリアフリー化 =New=

(3) 二次交通の利便性向上 (本冊 132 頁)

- ◆リムジンバス・アクセスバスの運行
 - 公共交通を利用して世界遺産を巡る観光客の利便性向上のため、リムジンバス(関西国際空港～高野山)、京都・高野山高速バス(京都駅～高野山)、高野山・熊野聖地巡礼バス(高野山～熊野エリア)、高野山麓世界遺産アクセスバス(高野山麓エリア)を積極的に情報発信し、利用を促進

(4) わかやまおもてなし県民運動 (本冊 136 頁)

- ◆「わかやまおもてなし宣言」の実施
 - 県民一人一人が来訪者への具体的なおもてなしの内容を「わかやまおもてなし宣言」に登録し、実践

(5) 接遇の向上・人材の育成 (本冊 138 頁)

- ◆おもてなし力向上研修会・課題対応研修会の開催
- ◆おもてなしの宿づくりセミナーの開催

5 「海外」から和歌山へ招く、「外国人観光客」をもてなす

(1) 『新たなプロモーション』で和歌山へ招く (本冊 142 頁)

- ◆関西広域で連携した周遊観光ルートの提案や首都圏からのプラスワントリップ推進等による外国人個人観光客対策を強化
- ◆アフターコロナに対応したアウトドア観光の推進、国立公園や南紀ジオパークと連携した誘客を促進 =New=

(2) 『海外26か国・地域』から和歌山へ招く (本冊 146 頁)

I アジア

- ◆増加する個人観光客をターゲットとしたメディア対策を強化、今後、求められるコンテンツ「安全・安心」や「健康」、「アウトドア(屋外型)」、「サステナビリティ(持続可能性)」をキーワードとした体験プログラムやツーリズムを積極的に提案

II 欧米豪

- ◆世界遺産「高野山・熊野古道」をはじめとした歴史や伝統文化に加え、「サステナブル(持続可能)」であることを重視する傾向を捉え、豊かな自然を生かした体験プログラムやガーデンツーリズムに取り組む。また、関西観光本部や近隣府県との連携を強化し、周遊観光ルートの造成に取り組む

(3) 『ネットメディア展開』で和歌山へ招く (本冊 159 頁)

- ◆多言語観光WEBサイト「Visit Wakayama」やフェイスブック、インスタグラム等SNSによる旬の観光情報を発信
- ◆CNNやBBCなど海外大手メディアを活用したグローバルキャンペーンの展開

(4) 『テーマ別の取組』で和歌山へ招く (本冊 161 頁)

- ◆「ほんまもん体験」に代表される和歌山ならではの体験型観光の魅力をアピールし、個人旅行者の長期滞在・消費拡大を促進
- ◆サイクリングやゴルフなどの各種アクティビティ、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西開催の機会を捉えたスポーツツーリズムを推進
- ◆県内の医療機関や旅行会社との連携により、健康づくりをテーマにした特色ある医療・ウェルネスツーリズムを推進
- ◆日本の庭園を中心に、周辺の観光地や食文化、体験プログラムを取り入れたストーリー性のあるガーデンツーリズムを国内外に向けて提案 **=New=**
- ◆外国クルーズ客船の誘致に向けた客船運航会社等へのセールスの実施、クルーズ観光情報の発信
- ◆南紀白浜空港への国際チャーター便を利用した県内宿泊ツアー商品造成の働きかけ

(5) 『外国人観光客』を和歌山でもてなす (本冊 164 頁)

- ◆デジタルを活用した観光周遊環境整備 **=New=**
ウィズコロナ時代の観光ニーズに対応し、スマートフォン一つで観光周遊できる多言語WEBアプリを構築し、ワンストップで様々な観光コンテンツを提供する環境を整備
- ◆公共交通等の移動環境の整備(交通アクセスの改善、多言語案内表示の充実)
- ◆宿泊施設等のバリアフリー化の推進 **=New=**
- ◆和歌山県版通訳ガイドの育成、就業促進のための情報発信
- ◆外国人観光客の受入環境(Wi-Fi、多言語案内表示ほか)の整備
- ◆和歌山ほんまもん体験のインバウンド対応支援
- ◆多言語コミュニケーションツール(電話通訳・簡易翻訳サービスほか)の導入推進
- ◆グローバルメディアを活用した県内事業者の情報発信強化
世界的なグローバルメディアを活用し、観光関係者自身による外国人観光客への情報提供やデータ分析によるマーケティングへの活用などの取組を推進
- ◆消費拡大のためのキャッシュレス決済環境の整備、消費税免税店の拡大
- ◆JNTO認定外国人観光案内所の拡充

【問い合わせ先】

観光局	観光振興課	073-441-2777	竹本、西田、中村
	観光交流課	073-441-2789	山田、古味山

和歌山県観光振興実施行動計画

= 観光振興アクションプログラム 2021 =



和み、和らぐ。 
和歌山から 
はじまる旅。

和歌山県・(公社)和歌山県観光連盟

目 次

令和3年度方針	1
1 コロナ禍からの観光産業の振興	3
(1) 安心・安全な観光地の形成	3
(2) 「新たな旅のスタイル」の普及・促進、デジタル化の推進	5
(3) 「蘇りの地、わかやま」キャンペーンの展開	6
(4) インバウンドの段階的回復に向けたプロモーション展開	16
2 和歌山を売り出す	18
(1) 『水の国、わかやま。』で和歌山を売り出す	18
(2) 『サイクリング王国わかやま』で和歌山を売り出す	23
(3) 『わかやま歴史物語』で和歌山を売り出す	31
(4) 『世界遺産』で和歌山を売り出す	41
(5) 『日本遺産』で和歌山を売り出す	54
(6) 『温泉』で和歌山を売り出す	62
(7) 『自然の素晴らしさ』で和歌山を売り出す	66
(8) 『食の魅力』で和歌山を売り出す	70
(9) 『ほんまもん体験』で和歌山を売り出す	72
(10) 『ブランド』で和歌山を売り出す	75
(11) 『四季折々の魅力』で和歌山を売り出す	80
3 和歌山へ招く	85
(1) 『メディアを活用』して和歌山へ招く	85
(2) 『ターゲットごとのプロモーション』で和歌山へ招く	96
(3) 『近畿、東海、西日本等』から和歌山へ招く	113
(4) 『首都圏』から和歌山へ招く	124
4 和歌山でもてなす	131
(1) 夜の楽しみ方の提案	131
(2) 快適観光空間の創造	132
(3) 二次交通（路線バス）	132
(4) わかやまおもてなし県民運動	136
(5) 観光週間	137
(6) 接遇の向上・人材の育成	138

5 『海外』から和歌山へ招く、『外国人観光客』を和歌山でもてなす	141
(1) 『新たなプロモーション』で和歌山へ招く	142
(2) 『海外26か国・地域』から和歌山へ招く	146
(3) 『ネットメディア展開』で和歌山へ招く	159
(4) 『テーマ別の取組』で和歌山へ招く	161
(5) 『外国人観光客』を和歌山でもてなす	164

本実行計画は、和歌山県観光立県推進条例第11条に定める観光振興実行行動計画として、同条例が定める基本理念並びに施策の基本方針、そして和歌山県長期総合計画が示す基本的な方向に沿って取り組む令和3年度の観光振興施策をまとめたものです。

【お問い合わせ】 商工観光労働部観光局

観光振興課 073-441-2777

観光交流課 073-441-2789

令和3年度方針

令和2年の観光客数（速報値）は総数：24,784千人（うち日帰り客数：21,540千人、宿泊客数：3,244千人泊）、外国人宿泊客数：45千人泊と、大幅に減少しました。そのうち、宿泊客数は昭和37年以降、総数は平成元年以降最低を記録しました。（昭和34年調査開始）

昨年はゴールデンウィークを含む4月から5月にかけて全国で緊急事態宣言が発令されたことによる都道府県間の往来自粛、各地で開催予定のイベント等の中止、夏休み期間の短縮など新型コロナウイルス感染拡大の影響により、観光産業は大きな打撃を受けました。7月以降の「わかやまリフレッシュプラン」やGo To トラベル事業などの需要喚起策により観光客数は一時的に回復傾向にあったものの、年末からの第3波の感染拡大により、Go To トラベル事業が停止され、年明けには2度目の緊急事態宣言が首都圏や京阪神地域などに発出されるに至り、観光需要は長期にわたって冷え込んだままの状態が続いています。

こうしたなか、和歌山県では独自の施策として全産業を対象とした「事業継続支援金」や「県内事業者事業継続推進事業」などに加え、観光関連産業に特化した「観光客あんしん受入環境整備事業」や「観光関連事業者緊急融資」などの支援も講じてきました。

新型コロナウイルス感染症との戦いは当分の間続くことが想定されるため、令和3年度においても、安心・安全な観光地の形成に向け、宿泊施設、観光施設等の感染症対策の充実を図るとともに、「飲食・宿泊・旅行業給付金」により事業の下支えを行っていきます。事業者支援については、今後も業況を的確に把握し、必要な施策をスピーディーに実施していきます。

また、コロナ禍のなか、人と人との接触や人混みを回避するため、職場ではテレワークが一気に普及し、余暇の過ごし方では屋外でのアクティビティに注目が集まっています。こうした社会の変化や新たなニーズに的確に対応する「新たな旅のスタイル」を和歌山県から全国に提案し、普及・促進に取り組みます。具体的には、和歌山がワーケーションの最適地であるとのイメージ定着を加速させるため、ワーケーションに関する旅行商品の造成支援、プロモーション展開、企業等への提案活動などに取り組みます。また、体験事業者等を対象としたワークショップや個別指導等を通して体験メニューを磨き上げ、オンラインエージェントと連携して情報発信していきます。

昨年度から実施している「蘇りの地、わかやま」キャンペーンについては、今年度も引き続き展開し、コロナ禍における行動制限などにより閉塞感が世の中を覆うなか、「蘇り」や「リフレッシュ」をキーワードに、「自然・絶景」、世界遺産「高野山、熊野」、「パンダ」、「有名温泉」、「歴史」、「体験」など、和歌山がもつ様々な観光資源の魅力を広く訴求していきます。

また、県内や近隣府県からの修学旅行をはじめ、今年度、初号機の打ち上げが予定されている民間ロケットや、夏以降に運行されるJR西日本の特別急行列車「WEST EXPRESS 銀河」について、地元自治体、関連事業者等と連携し、誘客に繋がります。

インバウンド誘客については、現在も入国制限が継続しているため、海外プロモーション

ンが制約されている状況ではありますが、本年1月に世界的旅行ガイドブック「ロンリープラネット」において、その年の最も旬な旅行先を紹介する「Best in Travel 2021」読者投票の「サスティナビリティ」部門において「和歌山」が世界で唯一選出されるなど、引き続き海外からも高く評価されています。

今後、海外での新型コロナウイルス感染症の収束状況を見極めつつ、まずは海外大手メディアやSNSを活用したデジタルプロモーションによる情報発信に取り組み、沈静化の見通しが確認された国・地域から順次、機会を逃すことのないよう段階的に海外プロモーションを展開してまいります。

特に、外国人観光客が集中していたゴールデンルートから地方部への誘客を促進するため、京都・大阪、首都圏から紀伊半島へのプラスワントリップを目指した「広域周遊ルート」を構築し、「東京2020オリンピック・パラリンピック」「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」の開催に向け、東京観光財団や関西観光本部、田辺市熊野ツーリズムビューローをはじめエリア内のDMO（観光地域づくり法人）など関係機関と連携した共同プロモーションやCNNやBBCなど大手海外メディア媒体を使ったグローバル・メディアキャンペーン、旅行エージェント・メディアの招へい事業に取り組みます。

受入体制面では、外国人観光客の旅行形態が急速に個人旅行化していることから、これまでもバス停の多言語化など、二次交通アクセスの改善やキャッシュレス対応など個人観光客がストレスなく県内を周遊できる観光地づくりに取り組んできたところです。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響も含め、今後、国内外からの観光客の旅行スタイルが変化していくことが予想される中、これまでの観光コンテンツの魅力に加え、混雑している都市部よりもクリーンな自然環境や感染症対策などの安心・安全な受入体制が整っている場所やバリアフリー対応をはじめ、旅行者の多様なニーズに対応した観光地が好まれるものと思います。

このため、県では、そのような課題認識に向けた機運の醸成を図るとともに、クリーンで安心・安全な受入体制に加え、旅行者の多様なニーズに対応した観光地づくりを推進してまいります。

県及び観光連盟は、令和3年度も引き続き「和歌山ブランドの拡大」、「持続可能な観光地づくり」、「県内周遊」、「消費拡大」を基本コンセプトに、「和歌山の魅力」を国内外に発信し、和歌山への旅行動機の喚起を主軸に取組を進めてまいります。実行にあたっては、国内各地域や海外の国・地域のマーケットニーズやトレンドをオンタイムで収集、分析することで、観光資源や地域毎のターゲットを明確にし、継続的なメディアへの提案活動、旅行会社への情報提供、企業とのタイアップなどにより戦略を効果的に具現化してまいります。また、受入体制については、常にお客さまの視点に立ちハード、ソフト両面での充実に努めてまいります。

なお、本実施計画の実行にあたっては、新型コロナウイルス感染症の状況を含め、社会情勢を十分勘案し、誘客活動の重点地域、その手法、時期などについて情勢に応じた検討を加えることで臨機応変な対応に努めます。

1 コロナ禍からの観光産業の振興

(1) 安心・安全な観光地の形成

観光産業の雇用の維持と事業の継続に向け、業種別ガイドラインや新たな旅のエチケットの遵守など、感染拡大防止策の着実な実施を促すとともに、県内観光事業者に対し、新型コロナウイルス感染症に関する情報の提供や相談の受付、業況把握など、安心して安全な観光地の形成に向け、関係事業者と一緒に取り組めます。

◇ガイドラインの徹底等による宿泊施設・観光施設等のコロナ対策の充実

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、業種別ガイドラインや新たな旅のエチケットの遵守を促す等、コロナ対策を充実することにより、旅行先として安心して安全な観光地「和歌山」を実現します。

◇県内観光事業者に対し、コロナ関連情報の提供及び相談受付や業況の把握等の支援

公式HPを活用し、新型コロナウイルス感染症や支援に関する国や県などの情報を発信するとともに、観光事業者からの相談の受付や業況の把握に努め、効果的な観光施策の立案、実施につなげます。

◇飲食・宿泊・旅行業給付金 **=New=**

新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が発令されたことを受け、売上が大幅に減少している和歌山県内の飲食業、宿泊業及び旅行業の事業継続を下支えするため、給付金により、事業の継続と雇用の維持を図ります。

<対象者> 対象月のうち、ひと月の売上高が前年同月比で50%以上減少した中小法人・個人事業主であって次の業種に該当する事業者

ただし、2年1月、2月の売上高合計が15万円未満の事業者は除く

ア 飲食業：食品衛生法の許可(※)を受けた事業者であって、和歌山県内に店舗を有する者

イ 宿泊業：旅館業法の許可(※)を受け、又は住宅宿泊事業法の届出(※)をしている事業者であって、県内に施設を有する者

ウ 旅行業：旅行業法の登録(※)を受けた事業者であって、県内に主たる営業所を有する者

※ 2年12月31日までに許可等を得、対象店舗等において営業の実態があるもの

<対象月> 1月又は2月

<給付額> 従業員(※)規模に応じ、15万円から60万円

※常時使用する従業員の数	5人以下	15万円
	6人以上20人以下	30万円
	21人以上50人以下	45万円
	51人以上	60万円

<申請期間> 3月23日(火)から5月31日(月)まで(予定)

2020実績

◇県内事業者事業継続推進事業

<内 容> 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた県内中小企業等に対し、新たな取組に係る経費を補助

※補助限度額：最大100万円／補助率：対象経費の2／3以内

<時 期> 8月31日受付終了

<件 数> 253件（観光関連事業者のみ）

<補助額> 192,584千円

◇事業継続支援金

<内 容> 新型コロナウイルス感染症の拡大により大きな影響を受けている事業者に対して、事業の継続を下支えし、再起を支援

※支援額：原則20万円～100万円（従業員規模に応じ支援）

<時 期> 5月15日～3年2月28日（受付～3年3月26日）

<件 数> 50件（観光関連事業者のみ）

<補助額> 11,360千円

◇和歌山県観光客あんしん受入環境整備

<内 容> 観光客が安心して訪問できる魅力ある観光地を形成するため、県内観光関連事業者が実施する持続的な感染拡大防止、感染リスク軽減に資する大規模な投資を伴う施設の整備等に要する経費を補助

※補助限度額：最大1,000万円

※補助率：対象経費の2／3以内（大企業）、3／4以内（中小企業）

<時 期> 7月1日～3年2月28日（受付～10月8日）

<件 数> 96件

<補助額> 498,078千円

◇観光関連事業者緊急融資

<内 容> 観光関連事業者向けの1年間無利子、全期間保証料免除の融資

※限度額：4,000万円

※融資期間：10年以内

<時 期> 12月31日受付終了

<件 数> 80件

<融資額> 2,072,360千円

(2) 「新たな旅のスタイル」の普及・促進、デジタル化の推進

コロナ禍により、海外との往来が制限され、本県を訪れる外国人観光客は激減する一方で、日本人の旅行先の選択肢が国内に限られたことにより、海外から国内へと新たな旅行需要が生じています。これらの変化を捉え、減少した観光客を取り戻し、本県へのさらなる誘客を図るため、訴求力のある情報を発信します。

また、「新たな旅のスタイル」の普及・促進を図るとともに、観光情報検索やコンテンツ予約のオンライン化、キャッシュレスの普及など、デジタルを活用した観光周遊施策を推進します。

I 「新たな旅のスタイル」の普及・促進 **=New=**

新型コロナウイルス感染症の流行以降、テレワークのイメージ定着が進み、ワーケーションの機運が高まったことを踏まえ、「ワーケーション=わかやま」の定着を一気に加速させるための施策を展開します。 [詳細 98 頁](#)

◇

ワーケーション向けのサービスを提供する事業者「Wakayama Workation Networks」を拡充し、受入体制を充実します。

◇

わかやまで気軽に「ワーケーションが体験できる体制」を整備するため、旅行商品の造成を支援します。

<内容> 旅行会社を対象としたファムツアーの実施、エリア事業者との商談会の開催

◇

ワーケーションの利用促進に向け、首都圏及び都市圏において、ビジネスパーソンやフリーランスなど、ターゲット層を考慮したメディアによるプロモーションや企業等への営業活動を展開します。

II 観光デジタル化推進 **=New=**

情報検索やコンテンツ予約のデジタル対応、キャッシュレスの推進など、非接触が求められるウィズコロナ時代の観光ニーズに対応し、スマートフォン1つで観光周遊できるよう多言語WEBアプリを構築し、交通パス等のデジタル化を軸にワンストップで様々な観光コンテンツを提供する環境を整備します。 [詳細 164 頁](#)

III 「和歌山で楽しむアウトドア（仮称）」 **=New=**

新型コロナウイルス感染症の流行以降、“密”を回避する旅行が主流となっており、特に、自然に触れ合うアウトドア志向が急激に高まっています。これらの変化をとらえ、本県の豊かな自然を生かした素晴らしいアウトドアフィールドで大いにリフレッシュしてもらうため、情報発信や体験メニューのブラッシュアップを行い、誘客につなげます。

[詳細 68 頁](#)

